

## 平成 21 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	配位プログラミング — 分子超構造体の科学と化学素子の創製	
領域代表者名	西原 寛 （東京大学・大学院理学系研究科・教授）	
研究期間	平成 21 年度～ 25 年度	
<b>【科学研究費補助金審査部会における所見】</b>		
<p>本研究領域は、従来の錯体化学の合成方法を発展させ、「配位プログラミング」という新しい概念を用いて、精密な分子超構造体からなる多様な化学素子の創製を目指す魅力的な提案である。特に、ナノスケールの特異な機能を利用して、ナノからメゾ領域の超構造体を構築することで生まれる新規な分子素子へと展開するという方法論は、新しい潮流であり、関連分野への波及効果も期待できる。領域組織は若手主体で、かつ質の高い研究者で構成されており、独自の発想で世界の該当分野を先導しようとする意欲は高く評価される。また、領域の目的、個々の研究計画、方法が洗練されているだけでなく、領域代表者のマネジメント能力も高く評価され、活力ある研究の進展が期待される。</p>		